



グローバル化の次の時代

小岩 一郎*

現代は、グローバル化が進んだ社会で、日本は工業化社会としての地位が急激に下がっているとされています。現実的に、半導体や液晶ディスプレイなどの世界シェアは驚く程落ちています。元気なのは、自動車業界、部品業界、材料業界だけだと言っている方も大勢いらっしゃいます。さらに、「そのうちグローバル化がさらに進むと、それらの業界も元気がなくなる」と主張している方も多くいらっしゃいます。また、少子化、貿易収支悪化、国の財政悪化など、望ましい方向に進んでいるとは思えません。このような状況下で、何をしなければならないのでしょうか、いや、何ができるのでしょうか？講義している時も、この学生達の将来の職場が国内にあるのだろうか？気が付けば、こんなことを考えています。先日、新入生の図書館ガイダンスの引率をしている時に、大好きなピーター・F・ドラッカー氏関係の著作が並んでいる本棚の前を通り、まだ読んでいない本が2冊ありましたので（ピーター・F・ドラッカー氏は多作であり、関連の著作も沢山ありますので、私もかなりの数を読みました但未読の本も沢山あります。たまたま、2冊が目にとまっただけです。2冊以外全部読んだわけではありません。）、学生が本を借りるのと一緒に借りてきて、電車の中で読んでいました。『ドラッカーとの対話 未来を読みきる力、小林 薫著、徳間書店』の中に、「今の大変化の行方」に関して、「2015年までには終わると思います。私にはそんな予感がします。その時、世界は相当違ったものになるでしょう。今後は、資本や資金に代わって、知識が新しい中心的な資源になります。世界はポスト・グローバルの時代を迎えますが、同時に今よりもはるかに反対の方向へも進む、すなわち、部族的にもローカルにもなっていきますね。」と書かれてありました。皆様もご存知のようにドラッカー氏は予測をしません。『すでに起こっている未来』という著書があるように、現在起こっていて、その展開がまだ十分完全な形になっていないトレンドなどを徹底的に解析することで未来を読み切っているのです。日本は教育水準も高く、知識は強みだと考えています。そうです、ドラッカー氏の名言である、「強みの上に築け (Build on your strength)」,あるいは「得意の上に自らを築け (Build on your own strength)」があります。グローバル化では、成功したとは言いがたが国の産業は、強みの知識を資源とする次世代では、復活しなければなりません。学会活動を活性化して、産学連携を進めて、資源である知識を産業に活かしましょう。日本電子回路工業会と密接な関係にあり、経産省管轄の唯一の学会である、「エレクトロニクス実装学会」の時代が目の前に来ています。この重要なときに、正しい方向に全員の力を結集して、進んでいかなければなりません。